

奈良言友会会報

まほろば



第一代神武天皇即位の地に鎮座する橿原神宮

第27号

令和2年1月発行

孟母三遷と近江聖人の母

山崎貴浩

先日、あやめ池小学校で開催された「ことばの交流会」に参加させていただいた。天羽先生や村上先生がかなりご尽力くださったようである。平日の午後だったので、保護者はほとんどがお母さんだったが、いずれのお母さんもほんとに真剣に話を聞いていらっした。そしてどのお母さんも優しさと慈しみに満ちあふれた顔をされているように感じた。そもそもこういう会に参加すること自体がよい母親であることを証明している。このようなお母さんに育ててもらっている子どもは吃音があったとしても幸せな生活を送っているのだろうと安心した。その反対に子どもの吃音にまったく関心がない親もいるかも知れないのである。昨今、児童虐待のニュースをよく目にするが本当に心が痛む。子どもはどんなことをされてもお母さんのことだけは大好きである。それを思うと泣けてくる。「おかあさん、なんと優しい響きの言葉であることか。

「孟母三遷の教え」というのをご存知だろうか？ 孟母とは儒教の哲学者・孟子の母親のこと。孟子は「孔孟」と列挙されるように中国では最高の聖人とされている。孟子は早くに父を亡くし、母親と墓地の近くで暮らしていたのだが、幼い孟子は葬式の真似ごとをして遊んだ。次に母子は市場の近くに移り住んだ。そうすると孟子は商人の真似をして遊んだ。これを見た母親は思うところあって今度は学校の近くに引っ越した。案の定、孟子は生徒の真似をして勉強を始めたというのである。これを孟母三遷の教えといい、孟子の母親は賢母の代名詞のようになっている。これとよく似た？話が日本にもある。近江聖人といわれた中江藤樹とその母の物語である。

私の小学校の校長先生は話の上手な方だった。低学年の時に担任の先生が休んだりすると校長先生が教室にやってくる色んな話を聞かせてくださった。今でも校長先生が熱く語ってくれた話をいくつかを覚えている。計算するとあの時の校長先生は今の私よりもたいぶん年下だったことになるが、はるかに老成されていたように感じる。小学校1年生のとき、校長先生が教室にやってくる、校庭に石像が立っている二宮金次郎のことだといって話してくれたと記憶しているのだが、大きくなってから調べると二宮尊徳ではなく中江藤樹の逸話であることがわかった。校長先生は私たちが興味を持つように金次郎のことにして話をされたのだろう。

校長先生の話は次のようなものだった。

近江の国に生まれた中江藤樹は幼い頃に父親を亡くし、母一人子一人の生活であった。貧しいながらも母親は藤樹をりっぱな人に育て上げようと藤樹が7歳のときに遠方の高名な学者のもとに一人で弟子入りさせ、住み込みで学問の修行をさせた。昔の休みは盆と正月しかない。9歳の正月に藤樹は久しぶりに師匠から短い休みをもらった。藤樹は走り使いなどをしてやっと貯めていたわずかなお金で、町で商家の子どもたちが佩や独楽などの遊び道具を買う中、手に付ける軟膏薬を買うと急いで故郷の家に向かった。母親が近所の家の洗濯などをして生計を立てており、冬の冷たい氷を使うために手が赤切れや霜焼けだらけなのを人伝に聞いて、それが心配でたまらなかったのである。藤樹はその薬を持って昼も夜もひたすら歩き続けた。家の前まで帰って来るとちょうど母親は寒空の下、井戸で洗濯をしているところであった。藤樹が「母上！」と呼んで駆け寄り寄ろうとすると母親は「待ちなさい」と制して家の中に入って戸を閉め、戸を隔てて「私の息子は学業を途中で放り出して帰ってくるような弱い人ではない。そんな者は私の息子ではない。」と言って藤樹を家の中に入れなかったのである。藤樹は「母

上、申し訳ありませんでした。私はすぐに戻ります。ですからお願いします。これだけは、この薬だけは使ってください。」と言って雪の降り積もる井戸端に赤切れの薬を置いてそのまま戻っていったのだという。語り上手な校長先生が気持ちを込めてこの話をしてくださったのだからたまらない。私は藤樹の気持ちを思うともう泣けて泣けて涙が止まらなかった。実は私の母親も藤樹の母に負けず劣らず厳しい人だったからで、そんなにされてまで母を想う藤樹の姿を自分に投影してしまったのである。例えば、昔は今よりもずっと埃っぽかったから外で泣いたりすると埃の付いた顔に涙の筋が残る。私がそんな顔で帰って来ようものなら母親に家に入れてもらえなかった。喧嘩で立ったのなら勝つまでやってこいともう一度外に出されたのである。日が暮れてから私の再訪を受けた喧嘩相手もいまい迷惑だったろうか私も困ったものだった。おかげで私は家に帰るときは家の前で入念に顔を拭く習慣が付いてしまった。運動会の徒競走で負けたり、授業参観で目立たなかったりしたらもう大ごとだった。堀さんが例会で「授業参観でどもって大恥をかいたが母親はなにも言わなかった」という話をされたことがあるが、そんなに優しい母上を持たれたことが心から羨ましい。なぜそんなに厳しかったのかと母親に尋ねたことがある。私が小さい頃、母親が結核に罹り、私は数年間母親の実家に預けられたことがあるのだが、その母親不在の日々を取り戻し、しっかりとした人に育てようとしてくれたのだという。誕生日のプレゼントにゲームが欲しかった私に本を買い与えて読書の習慣を付けてくれたのは母親である。講義勉強のやり方を教えてくれたのも母親だった。中学生の時に行くのが嫌だった英語塾に無理やり通わされたが、結局私は外国語大学の英語科を卒業した。母は強し、そして母は偉大である。

さて、3年ほど前に妻と2人で湖西を巡っていて、ふと道の駅に入るとその駅の名前が「藤樹の里」というのだった。久しぶりに中江藤樹のことを思い出し、妻にあの物語を話して聞かせたが、藤樹が雪の中、薬を置いて戻る段になるとやっぱり涙ぐんでしまった。その道の駅のすぐ近くに中江藤樹記念館がある



というので早速入ってみた。入館者は私たち2人だけで、見た感じ30代後半の女性の学芸員さんが親切に館内を案内してくださった。展示のクライマックスは期待どおり、雪の中での母親との再会シーンである。私が、小学生のときに教室で校長先生からこの話を聞いて泣けて仕方がなかったという話をすると優しくな顔をしたその学芸員さんは「男の人はお母さんには特別な思いがあられますからね」と静かに答えてくださった。そしてその学芸員さんは「こんなに母親思いだった藤樹がたった一つだけお母さんの言うことを聞かなかったことがあります。お母さんはなぜか嫁を気に入らず藤樹に離縁するように迫ったのですが藤樹は聞き入れませんでした。」と教えてくれた。なるほど藤樹先生も同居で苦労されたのであったか。なんだかんだいっても親子は血がつながっている。嫁姑問題ではいくら母親に分があると思っても嫁の味方をするのが夫の原則である。妻には苦労?をかけたか私は結婚してからも母親とずっと同居しているし、自然と孫も同居している。何と言われようと今の時代、それだけで十分親孝行だったのではないかと自分を慰めている。その母も最近では病気をしてからめっきり弱気なことを言うようになってきた。私としては少々寂しい気もする今日この頃である。

例会報告

○ 5月12日(日) 参加10名 初参加2名

第1部 電話練習

担当・報告：前川聖治

電話例会をやってみようと思ったきっかけは以前、他の言友会に参加した時に電話例会をやっていたので、為になったので、一度奈良言友会でもやってみようと思いました。電話を苦手としている方は多い中、普段練習する機会はあまりないので、練習をしてみたいと常々考えていました。会長にそのことを進言したところ、うちでもやってみましょうと鶴の一声をいただき実現することができました。

実際の電話を想定した内容で、一対一で電話機を使って例会は進められました。

取引先への電話や日常の電話などを、数分ほど話をしてもらい、電話かける側と受け手側のペアを考えて組み合わせし、話す内容を考えてもらいました。会場の予約やホテルへの予約の電話など、皆さん上手に話をされているという印象で、発案した私が一番緊張して、話をしているようでした。

例会が始まるまでの余談ですが、事前に例会の内容や進め方について、会長と打ち合わせを行う予定をし、場所と日時も決めていたのですが、当日、目的地まで行ったものの先に帰ってしまい、会長と入れ違いとなってしまう、会長に多大なご迷惑をおかけしてしまいました。結局打ち合わせは中止となってしまいました。また、電話機を入手することに思いのほか手こずってしまい、会場でうまく作動するか疑わしい状態で、アクシデント続きで、例会の開催が危ぶまれましたが、何とか事なきを得ました。

当日は早く会場に出向き、うまく作動したので安心しました。

例会は楽しく進み最後は英語を喋れる方同士での話し合いがあり、大変盛り上がりました。例会の後に各自に感想を聞いてもいい評価をいただいたので、例会は成功だったと思います。

奈良言友会で初めての電話例会でしたが充実した時間となったと思います。準備の段階でいろいろとあり、ひやひやしましたが、ご支援いただいた方のお陰もあり例会は無事終了しました。感謝の気持ちと安心感がこみ上げました。また今後電話例会をできたらと思います。

<参加者の感想>

○電話例会、久しぶりに緊張しました。電話例会はとてわかり易い例会でした。M・G

○内線電話を用意してもらえるととは思っていませんでしたので、練習できてよかった。M・K

○今まで電話例会をしたことがなかったので、とてもよい体験になりました。ふだんと違う設定でやりとりは緊張するし、むずかしいものだとつくづく感じました。実際の電話器を用意していただき臨場感もあり、それぞれの電話対応の場面設定も楽しく盛り上がった例会になったと思います。A・I

○電話には慣れているつもりでしたが、人前でするのはあまり経験がなく、緊張しました。A・M

○実物の電話器を使っての練習は臨場感があってよかった。H・S

○はじめて参加したのですが、とても緊張しました。吃音持ちという部分と電話対応が苦手な所に興味を持ちました。勉強にもなり参加してよかった。N・N

○久しぶりに電話例会をして緊張感がありました。話す内容を準備しないとどものが多いなと感じた。G・B

○すごく緊張しましたが、いろんな設定でとても楽しかったです。言う事が決まっていない言葉を話すことは、とてもむずかしいと思いました。K・R

○例会を行う前に念入りに準備しておりました。上手く電話器が使えて準備していた甲斐がありました。よかったです。M・S

※ 前川さんから、今回使用した電話機セットを奈良言友会に寄付したいとの申し出があり、お受けしました。ありがとうございました。この電話器を使っていろいろバラエティーに富んだ例会ができると思います。みなさんもこれを使って、例会を担当してみませんか。

第2部 話し合い。吃音の不安、悩みについて

担当：後藤文造 報告：堀茂

いつもより若い人の参加が多かったのですが、司会の後藤さんがうまく若い人の発言を引き出して、活発な話し合いになったと思います。

吃音が気になって、引っ込んでしまう、なかなか前向きになれない。吃音にとらわれている。ひとに合うのが怖くて引っ込んでしまう。職場の人へのカミングアウトがなかなかできない、などいろんな悩みがだされました。「志乃ちゃんは自分の名前が言えない」を読んで、吃音に向き合う姿勢を学んだ、という人もありました。

ストレスがたまった場合の発散法では、スポーツに打ち込む、カラオケやお酒で発散するなどが出されましたが、カラオケの話から、次の例会はカラオケでしようということになりました。

<参加者の感想>

○吃音について思い当たることを相談することができてよかったと感じています。

気にしすぎているとしんどくなるに気づき、教えていただいたので勉強になりました。N・N

○自分の言いたいことが言えてよかった M・K

○新しい人がきつおんの悩みや不安を話すのを聞いてとてもよかった。M・G

○初めての参加者が数人こられていたのが、うれしかったです。仲間を大切にしたいです。T・T

○改めて自分の吃音観を振り返る良い機会になりました。A・M

○皆さんがそれぞれご自身なりの悩みがあり、それをうまく解消されていることにさすがだなと感じました。初参加の大学生の方が素直な質問を投げかけてくださったことで、皆さんそれぞれの、いろいろな引き出しが開いたように思います。A・I

○ 6月2日(日) カラオケ例会 参加9名

担当：後藤文造・三島学

いつもの例会じゃなく、まずは奈良ボランティアセンターに集まり、新しい岡本さん、丹羽さんと森さんと田中さんと前川さんと会長の堀さんと後藤さん天羽さんと三島の9人が奈良ジャンカラに行きました。初めに自己紹介みたいなことをして、最初は僕から歌いました。とても緊張しました。いつもの例会じゃなく、みんながそれぞれ歌って、とても楽しく感じました。また、違った例会をしていって、たのしい例会を期待したいと思います。新しい人が例会を企画していって、奈良言友会が盛り上がるのを期待したいと思います。

○ 7月14日(日) 流暢性形成にかかる方法について 参加5名

担当・報告：天羽隼子

6月例会での話の中で、吃音の主症状の軽減についての取り組みも例会でやってみてはという参加者のご意見が出て、ことばの教室で流暢に話しやすくなるための指導を行っている私が担当になりました。

そこで、北里大学東病院総合リハビリテーション部門言語聴覚療法で、吃音で受診された方に配布されています「吃音のスピーチセラピー」の冊子と、「自分で試す吃音の発声・発音練習帳」学苑社を参考資料に、ことばの教室で行っている流暢性形成法にかかわる方法をご紹介します。実際に練習も行いました。

(呼吸)呼吸を意識的にコントロールする→ゆっくりとした深い呼吸

私はことばの教室で、腹式呼吸の練習を通級してきた児童に毎回行い、習慣づけることを行っています。児童がことばがつかまってしまうとき、呼吸が浅くなり、ときには、口から急に大きく息を吸い込む引き息になっていることから、発表や音読場面など、緊張した中で話し始める時、まず深呼吸し呼吸を整えることが大切だと話しています。

(声の出し方)

声には、声帯に力が入り呼気の圧力が高い硬起声と、声帯の力がぬけ呼気の圧力が低い軟起声があります。みなさんがすでにご存じのとおり、吃音が起こりにくいのは軟起声での発声です。

ことばの教室では、「ハ」とやわらかく小さく声を出すことから練習しています。

「ハ」の発声は、咽喉も口も開き、咽喉がリラックスしやすい音なので、小さい子にもやわらかい声だし、つまり軟起声の出し方がとらえやすいと思っています。

「ハー」と息をだし、その続きで声につなぐ練習もしています。息から声につなげることによって、咽喉の緊張を和らげ、スムーズな起声ができると考えて指導しています。「ハ」ができると、次に息から声につなぎやすい「フ」で練習しています。

(声を伸ばす)

軟起声が出せたら、その音を長く安定して出す練習をします。最初は5秒も声が続かなかった子でも、練習を重ねると15秒から20秒ぐらい安定して軟起声が出せるようになります。無理なく長くやわらかい声が続くということは、一息で話したり読んだりできることばの量が多くなり、安定的に話したり読んだりができると考えています。

(引き伸ばした言い方) Easy Relaxed Approach with Smooth Movement (H. Gregory)

- ・第1音は、やわらかく声立てする。
- ・第1音から第2音への移行は速度を落とす。
- ・スピーチ全体をやわらかい発声で行う。
- ・単語→句→文章へと移行する。
- ・身体的緊張にも配慮する。
- ・上記のようなERA-SMの方法で、ことばを言う練習をします。

呼吸を整える→深く息を吸う→息をはき声に移行する→第1音を引き伸ばし第2音へつなぐ。そのあとのことばはゆっくり言う。引き伸ばした言い方練習として、いろいろな単語で練習し、うまく言えるようになったら、音読や会話で練習をします。言い始めは引き伸ばすようにし、息がきれたら、また引き伸ばした言い方を繰り返すようにしていきます。呼吸法、軟起声の出し方、引き伸ばした言い方と、お話しした後、みなさんと軟起声の出し方など実際に練習をして、「流暢性にかかわる方法」の例会のまとめとしました。

<参加者の感想>

○軟起声ができるか分からないけれどもして見ようと思う。有意義な時間でした。O・K

○私の悩んだ子供時代に、このようなスキルを学びたかった。親のせいにしたくないですが、スキルを選ぶ環境に自分がいたら、また変わっていたかも知れない。T・T

○とても発声の仕方とかが分かりやすかった。M・G

○ことばの教室ですごくゲームをする中で発声や発語の練習に取り組めるような工夫をしておられることに興味深く思った。H・S

○ 9月8日(日) 日本吃音・流暢性障害学会第7回大会参加報告 参加9名 担当・報告天羽雅子

2019年8月30日・31日に北里大学相模原キャンパスで、「吃音を癒す 未来への懸け橋」というテーマのもと、日本吃音・流暢性障害学会第7回大会が開催されました。

北里大学では、吃音の臨床や研究が先進的に取り組まれていて、原由紀先生や吉澤健太郎先生など、吃音の臨床・研究で著名な素晴らしい先生方がおられます。今大会の会場が北里大学ということで、ぜひ行ってみたいと期待して参加しました。

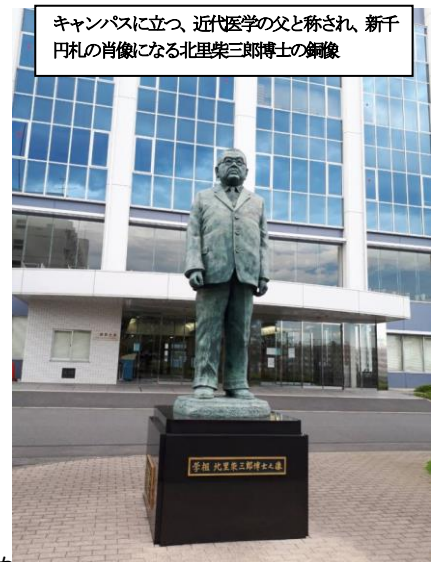
大会のプログラムは、特別講演「ことばの力」重松清氏やシンポジウム、パネルディスカッション、研究報告、ポスター発表、ハンズオンセミナー、ビデオセミナー、ワークショップ、女性のつどい、マイメッセージ。口頭発表と多岐にわたっていました。

重松清氏の講演は、一言一言が心に響くもので、感動して聴き入りました。多くの方が涙して聴いておられました。「すらすら話すことがはたしていいことなんだろうか。つまって言えないその沈黙の中に、多くのすばらしい思いや考えが込められている。詰まりながら言うそのことばにその人の人柄がにじみ出る。そういうことがあるのではないか。吃音のめぐる目力に目言を持つて生きてほしい。」とひとことでもまとめてしまいましたが、私のつたない表現力では、あの感動を表すことができず、申し訳ありません。ご報告したいことは多くあるのですが、その中で、例会では、ハンズオンセミナーの中の「認知行動療法を用いたグループ訓練」と、口頭発表の中の「腹圧式吃音改善法を用いた成人吃音の改善例」について、お話ししました。ここでは、正確にお伝えするために大会抄録集から抜粋、引用させていただきました。

大会抄録集より「認知行動療法を用いたグループ訓練」 国立リハビリテーションセンター病院

北條具仁 森浩一 酒井奈緒美 灰谷知純 角田航平

青年期以降の吃音のある人を対象にした認知行動療法を用いたグループ治療について、報告し、そこで用いた技法を紹介する。認知行動療法を用いたグループ治療は、対面での訓練を5回に分けて実施し、心理態度面を訓練終了後も質問紙で4



キャンパスに立つ、近代医学の父と称され、新千円札の肖像になる北里柴三郎博士の銅像

回フォローアップするプログラムである。吃音検査法を用いた訓練直後の改善は有意であり、心理態度面にも効果があった。

この中で用いた技法は、「随意吃」と「考えながら話す」の二つである。

随意吃は、繰り返しや引き延ばしを自分から積極的に用いて会話する技法である。「どもりたくない」「どもらないように」の構えから、「どもってもいい」「どもって話そう」の構えに入ることが目標で、それによりコミュニケーションがよくなり、不安や恐れが軽減する効果が生じる。個別指導の中では、実施と定着が難しいが、グループ治療では比較的導入しやすく、グループ治療に向けた技法と捉えている。「考えながら話す」は、とてもユニークかつ「はっ！」とする訓練法である。「1回で内容が頭の中にしっかり入る」くらいの速度で(つまり、かなりゆっくり)で音読する訓練を行う。音読しながら内容を深くとらえ、視覚的なイメージも想像し、自分の意見や考えなども浮かべながら音読する。そうすると、ただ文字を音に変換するという発音意識モードによるボトムアップ的発話から、内容理解に基づくトップダウン的発話機能による発話へスイッチする。また、情景画や頭に浮かんだ内容を「えーと」や沈黙なしに、ひたすら説明し続けるトレーニングを行う。文章を準備してから話すのではなく、文字化前の内容(イメージ的な思考)を思いついたまま話すことで、トップダウン的、独り言的な「考えながら話している」を体験する。例会でも、みなさんと「随意吃」や「考えながら話す」練習を行いました。学会で聞いてきたことをお伝えただけで、実際に実践されている先生方のようにはいかず、吃音の臨床のご紹介にとどまりましたが、国立リハビリテーションセンターで行われている吃音臨床の一例を知っていただけたらと思います。

「腹圧式吃音改善法を用いた成人吃音の改善例」

特定非営利法人「つばさ吃音相談室」

医療法人赫和会 杉石病院 羽佐田 竜二

成人吃音者に対する直接衣的アプローチは、軟起声やライトコンタクトというようなものが主流として行われてきた。ゆっくり、ゆったり、そっとやわらかくと、よい意味で身体を意図的に消極的に用いることにより、力をぬいたスムーズな発話を促してきた。しかし、吃音が出ない歌唱において考えてみると、余分な力みは否定されるものの、一定の力を身体の特定の部位に効率よくかけることを推奨しているものが多い。

そこで、発話においても歌唱においても、必要とされる動きと、妨げとなる動きが存在するという考えのもと、あえて、身体の一部に消極的に力をかける方法を併用した直接的アプローチについて報告する。

(方法)複数の吃音のある方に、腹腔内の圧力、腹圧を一定以上に保ち、その状態で発話をする訓練を一定期間実施した。

(結果)複数の症例で、吃音検査法による検査の結果、および視覚的、聴覚的印象においても顕著な改善が確認された。吃音の中核症状の減少のみならず、随伴症状の減少も確認された。

発表のときに、羽佐田先生のご指導場面のビデオ映像が紹介されましたが、手を握ってこぶしを作り、そのこぶしでお腹(みぞおちの下あたり)をこたばを言いながら叩くというものでした。叩くことによって、腹圧を意識できるとのことで、この練習は、腹圧を高めることを意識するためのもので、徐々に叩かなくても腹圧を高められるようになっていくとのことでした。

こたばの教室で、そっとやわらかく、ゆっくり話したり読んだりを基本に指導していますので、この方法は、画期的な感じはしましたが、指導力が必要だということと、児童にはむずかしいと思いました。

例会では、学会で配布された資料を見ていただきお話できたのですが、たくさん量になるため割愛させていただきました。そのため、未熟な文章表現で学会報告として不十分であることをお許しください。

例会終了後、JR奈良駅構内のレストランで、丹羽さん発案の食事会を行いました。例会にゲストで参加されたおおさか結言友会の事務局長、西尾優人を含め、6人が参加しました。

○ 10月6日(日) 飛鳥歴史探訪の例会

担当：山崎貴浩 報告：堀茂

暑かった夏も過ぎ、外出には気持ちのいい季節になり、10月例会は、歴史探訪の会と銘打って飛鳥の風物を楽しみ、親睦を深める例会にしたいと企画しました。今回は、飛鳥に造詣の深い、山崎さんに案内をしていただき、全面的にお世話になりました。今回は都合の悪い人が多く、参加は、岡本さん、澤辺さん、堀と山崎さんの4名でした。10月6日13時半、大和八木駅に集合し、まず、飛鳥を一望できるミグランス10階の展望フロアからの景観を楽しみながら、山崎さんから飛鳥を説明していただきました。そのあと、

山崎さんの車で、ガイドしていただきながら、神武天皇陵、藤原の京跡、万葉文化館、等々みどころを巡りました。キトラ古墳では、見事な復元展示に感心しました。四神図、日月図などに古代人の世界観をうかがい、天文図は今のプラネタリウムを見るようでした。そのあと奥飛鳥まで足を伸ばしましたが、収穫間近い黄金色の棚田がたいへんきれいでした。

飛鳥巡りのあとは、古民家カフェで、山崎さんが用意して下さったキムチ鍋をつつきながら、歴史や吃音談義に老若年齢差をこえて話が弾みました。

参加したみなさん飛鳥での時間を楽しまれたと思います。ただ、参加者が少なかったのが残念で、今後、もっと多くの人に参加してもらえるよう考えていきたいと思います。

山崎さんには大変お世話になり、ありがとうございました。

第8回ことばの親子交流会

堀 茂

毎年夏に、県下の吃音のある小・中学生と保護者を対象に実施してきたことばの親子交流会ですが、今年も第8回を7月27日(土)2年ぶりに生駒山麓公園で実施しました。

ちょうどその頃、台風6号の近畿接近が伝えられ、実施できるかどうか分からない状況となりましたが、当日の朝、雨模様の天気でしたが、事前にお知らせしていた警報がでていないことから実施することになりました。今年は、例年になく、参加者が多く、児童26名(うち、吃音あり18名、なし8名)保護者25名、スタッフは、ことばの教室の先生8名、一般ボランティア11名、奈良言友会7名、総数77名の大勢になりました。

いつもと同じ10時半に開始、アイスブレイクの自己紹介ゲームなどでみんなの緊張をほぐしたあと、子どもチームと保護者チームに分れて午前の活動に入りました。子どもチームは屋外でフィールドアスレチックをする予定でしたが、雨のため、屋内でのクラフトやゲームに変更しておこないました。

保護者チームは屋内研修で、今回は京都言語障害研究会会長の脇豊明先生をお迎えして「家庭での環境調整について」と題して、講演をしていただきました。子どもにとって話しやすい環境をつくるための配慮や工夫、望ましいコミュニケーションの仕方、子どもの自己肯定感を育てるには?などについて保護者の方が実行できる対策を具体的、ていねいにお話をされました。保護者の方々にはみなさん真剣に耳を傾けておられ、活発な質問が次々になされました。

午前の活動が終わったところで、雨がだんだん激しくなっており、屋外のバーベキューを中止せざるを得なくなりました。午後の活動ができなかったことから、終了とさせていただきます。

フィールドアスレチックやバーベキューが実施できなかったのは残念でしたが、子どもチームのクラフトや保護者研修など、午前のプログラムが実施できたことは幸いでした。

予定のプログラムが実施できなかったことから、後日、参加者全員について、納めていただいた参加費の65%を返却させていただきます。台風による強い雨や風に見舞われたのは、この行事でははじめての経験ですが、きびしい状況のなかで、奈良言友会ははじめスタッフのみなさんにはずいぶん頑張ってくださいました。

奈良言友会の例会

日時：毎月第1日曜日 13:30~16:30

場所：奈良市はぐくみセンター (JR奈良駅西口 南へ歩3分)

奈良言友会連絡先	市田 浩志 (いちだ ひろし)
	TEL090-1228-6867 E-mail piropiroichi@yahoo.co.jp
	田中 知樹 (たなか ともし)
	TEL090-9253-0914 E-mail tomoki.t-1126@ezweb.ne.jp

奈良言友会 naragenyukai@hotmail.co.jp

奈良言友会HP <http://nara-genyukai.jimdo.com/>

奈良言友会会報誌「まほろば」編集発行 山崎貴浩

□2019年度の年会費納入(11月現在) 後藤文造、三島学、田平隆彦、松本勝利、天羽郁子、田中知樹、沢辺祐一、山崎貴浩、堀茂